専門研修プログラム名	駒木野病院精神科　　専門研修プログラム
基幹施設名	医療法人財団青溪会　駒木野病院
プログラム統括責任者	田　亮介

専門研修プログラムの概要	民間精神科病院が基幹施設である本プログラムは、我が国の精神科病床のほとんどが民間精神科病院であるという現実に即し、地域社会に根ざした臨床実践的な内容のプログラムを目指している。地域の中核的な精神科病院として長い年月の中で培われてきた精神科医としての基本的な倫理性や患者への思い、疾病に対する学問的な態度などを知ることができる。また、ニューケースの検討会を毎週月曜に、第３月曜の医局会の後には勉強会を行い、きめ細やかな指導を受けることができる。3年間のプログラムの中で都市型の急性期治療に特化した大泉病院、地域に根ざした精神科医療を展開する七生病院、都外にあり急性期治療病棟や認知症専門病棟を有するつつじメンタルホスピタル、総合病院である慶應義塾大学病院をローテートすることによって多彩な症例を経験することができる。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	研修期間中、指導医のもとで助言や直接的な指導などを受けて患者の診療にあたっていく。研修の３年間で大学病院（総合病院）と精神科専門病院を中心にしたローテーションを行う。専攻医には研修期間を通じて症例検討会や抄読会、学会発表、自身の研究活動の機会が継続的に提供される。	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	全研修を通じ、統合失調症や気分障害、神経症性障害等の精神疾患に関する診断・検査・治療等を習得する。特に児童・思春期精神障害、アルコール・薬物依存症については総合病院や専門病棟を有する医療機関にて学習していく予定である。
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	症例カンファレンスや抄読会、研修会などを通じて知識や技能を習得し、さらに学会等での報告を３年間の中で行う。
	学問的姿勢	３年間の研修を通じて、生涯にわたって自己研鑽を続けられる姿勢を涵養することが目標となる。特に法の遵守や協働的な治療、科学的思考や問題解決思考などのリサーチマインドも醸成することが目標となる。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	各機関での診療を通じ、人権への配慮を行い、患者や家族のニーズに合った適切な医療ができることを目標とする。さらに総合病院での研修を通じて他科との連携を、また地域医療を通して多職種連携を習得し、チーム医療を行う上での適切な関係を構築することを目標とする。
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	３年間の中で、基本的には１～２年間の基幹病院における研修と、精神科専門病院や総合病院での研修を行う。
	研修施設群と研修プログラム	4つの施設群から構成され、認知症、児童・思春期精神障害、アルコール依存症の症例も経験できる構成となっている。
	地域医療について	病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療、地域医療などでの医療システムや福祉システムを理解する。

専門研修の評価	当該施設終了時に研修目標の達成度を評価し、またフィードバックを行い、形成的評価を実施する。加えて、達成度や経験症例を評価し、医師としての備えるべき知識や技能、態度を有しているかを検証する。多職種評価も行い、その上でプログラム管理委員会の審議を経て判定を行う。	
修了判定	研修基幹施設の研修プログラム管理委員会において、知識・技能・態度それぞれについて評価を行い、総合的に修了を判定する。	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	研修プログラムの作成や施行上の問題点の検討や再評価を継続的に行い、また各専攻医の統括的な管理や評価を行う。また専攻医および指導医に対する助言を行う。
	専攻医の就業環境	研修施設の管理者は専攻医の心身の健康維持に配慮する。そのため勤務時間の管理や休日の保証、当直・時間外診療業務のバックアップ体制、適切な待遇等、研修に支障がないように配慮する。
	専門研修プログラムの改善	専攻医による評価やサイトビジット等の評価を受けて、プログラム管理委員会での検討を経て改善される。
	専攻医の採用と修了	日本国の医師免許取得と初期研修の修了を採用要件とし、審議の上で採用する。そして指導医の下、3 年以上の研修を行い、研修項目表よる評価と、多職種による評価、経験症例数リストの提出が終了要件となる。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	特定の理由により研修困難な場合は中断することができる。6ヶ月までの中断では必要症例等を満たせば研修期間の延長を要しない。6ヶ月以上の中断でも、中断前の研修実績は有効とし、プログラム移動の際は精神科専門医制度委員会に申し出る。
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	研修委員会には医師のみではなくメディカルスタッフも参加することとする。また日本精神神経学会によるサイトビジットや調査に応じる。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。主な情報として医師名、所属、役職を記述してください。	森山泰（駒木野病院・診療部長）、岩垂喜貴（駒木野病院・診療部副部長）一木里江（駒木野病院・医長）、内田裕之（慶應義塾大学病院・教授）、菊地俊暁（同・専任講師）、前田 貴記（同・専任講師）、半田貴士（大泉病院・院長）、冨田真幸（同・副院長）、加藤隆（つつじメンタルホスピタル・医員）、玄東和（七生病院・医局長）他	
Subspecialty領域との連続性	精神科サブスペシャルティは、基本的には精神科領域専門医となった者に対してより高度の専門性を獲得することを目指すものとする。	